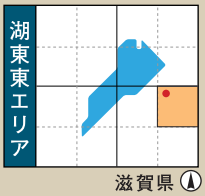
NO.086

名勝
国指定

多賀神社奥書院庭園

（たがじんじゃおくしょいんていえん）

多賀町多賀　昭和10年6月7日指定



多賀神社は天照大神の両親伊邪那岐命、伊邪那美命を祀る式内社で、延命、縁結びの神として全国的に有名な神社です。庭園は、神仏習合の名残を今にとどめる奥書院にあり、多賀神社の深い森にとけ込む見事な構成となっています。

当時のできごと	
712年	古事記ができる
1494年	足利義高将軍となる
1588年	刀狩を発令



多賀神社奥書院庭園

多賀神社の沿革

多賀神社が文献に見えるのは『古事記』が最初で、「伊邪那岐大神は淡海の多賀に坐す」とあります。社伝では、伊邪那岐命は、近くの杉坂山に降臨し、ふもとの栗栖の里で休み、多賀の地に鎮まったとあります。開基がいつ頃なのかは明らかではありませんが、鎌倉時代には犬上郡の総鎮守とされ、郡民のみならず、公家、武家の信仰を広く集め、その折りの祈願文や寄進の品が多数残ります。

伊邪那岐命、伊邪那美命が、天照大神の親神であることから、縁結びの神として、俊乗坊重源の延命伝説から延命の神として、民間の信仰を集め現在に至っています。社殿は度々火災に遭い、現在の本殿は昭和7年（1932）に再建されたものです。

多賀神社奥書院

多賀神社に伝わる中世末に描かれた「多賀社参曼陀羅」を見ると、現在の多賀神社とは全く異なる景観が描かれています。社殿の周辺には仏堂が建ち並び、当時の多賀神社は神仏習合の構成をしていたことがわかります。このうち、中心的な堂が不動院で、明応3年（1494）近江守護佐々木高頼の命により開基され、後に多賀神社の別当、神宮寺として多賀信仰を全国に広めるなど、神社の運営に深く関わります。明治期の廃仏毀釈により、多賀神社の仏教建築はことごとく廃されましたが、不動院の書院だけが、社務所の奥書院として残されました。



滝石組と三尊石



多賀神社社殿

多賀神社奥書院庭園

奥書院（不動院書院）庭園は、秀吉が母の病気平癒を祈念し、その霊験があったことを感謝して作庭されたともいわれる、桃山期から江戸初期の池泉鑑賞式の庭です。池は石組の護岸で自然な曲線で広がり、東北には築山を造り隅に滝石組を配します。その手前に大きな自然石で橋を架け、池中には鶴島、亀島を配しますが、鶴島は現在、岸とつながり出島になっています。流れの向かいには桃山期の手法をよく表した三尊石が見られます。庭の背後は多賀神社の歴史を感じさせるうっ蒼とした林が広がり、庭と見事に調和しています。



池汀の石組

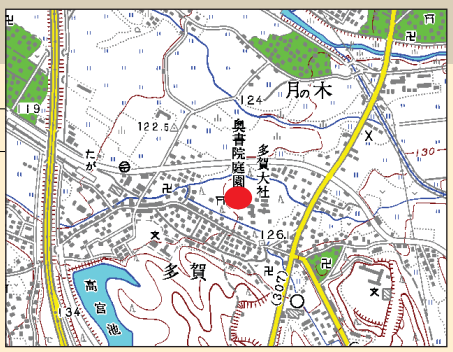
関連する文化財

多賀大社奥書院（県文）	奥書院の建物は江戸期のもので、古建築がほとんど残っていない多賀大社にあって貴重な存在
紙本金地著色調馬・厩馬図（重文）	6曲1双の屏風絵。厩馬、調馬を題材とするが、当事の生活も活写する。桃山時代末から江戸時代にかけての狩野派の作
胡宮神社社務所庭園（多賀町）	学習シートNo.085

もっと深く知りたい

多賀町立博物館	☎0749-48-2077　犬上郡多賀町四手976-2
多賀町教育委員会	☎0749-48-8123　犬上郡多賀町多賀240-3

多賀神社奥書院庭園へのアクセス　JR琵琶湖線　彦根駅下車
近江鉄道　たが駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月